

第5回 学研高山地区第2工区事業推進会議 会議録

日時：令和7年8月26日（火）17:00～19:00

場所：生駒市たけまるホール 小ホール

出席者

参加者（敬省略）

増田昇、加藤博一、河合智明、村井剛、内田実保、領家誠
オブザーバー 朝井麻由

欠席者（敬省略）

無し

事務局

清水都市整備部長、有山都市整備部次長、秦学研推進課長、
浜田学研推進課課長補佐、石田学研推進課課長補佐、
谷口学研推進課主幹、西田学研推進課主幹、銭谷学研推進課係長、
北田学研推進課主査、山上学研推進課主事、

会議の公開・非公開の別 公開

傍聴者 3人

案件

1. けいはんな学研都市次期ステージプランについて
2. 学研高山地区ゲートエリア基本構想（案）について

配布資料

- 資料1 学研高山地区第2工区 前回事業推進会議以降の取組み報告について
資料2 けいはんな学研都市次期ステージプランについて
資料3 学研高山地区ゲートエリア まちづくり基本構想について

事務局説明

- ・開会宣言
 - ・配付資料の確認
 - ・新規委員の紹介
 - ・座長の選任
- 委員の互選として増田委員を座長として選任

増田座長挨拶

- ・村橋先生にはまだまだご指導いただきたいところではあったが、残念ながらご逝去されたということで、ご冥福をお祈りするとともにこれまでのご活躍に関して感謝を申し上げたい。
- ・昨年10月の第4回推進会議では、南エリアの基本計画図、企業の立地誘導の方向性と事業スケジュールについて議論いただいた。
- ・今回の案件はけいはんな学研都市次期ステージプランについて、学研高山地区ゲートエリア基本構想（案）についての2点である。

案件1 けいはんな学研都市次期ステージプランについて

資料1・資料2に基づき、事務局から説明

（領家氏）

- ・2工区の個別地区用途が住宅系から産業系に転換される中で、生駒市として産業集積の方針や立地誘導戦略については十分に示せていない状況である。前回の事業推進会議において示された立地誘導3分野のうち、奈良先端大との連携が第一分野であると考えている。奈良先端大が行うJ-PEAKS（地域中核・特色ある研究大学強化促進事業）に関連する企業や機関、取組をする環境整備のようなものの実現可能性の調査を行った上で第2工区内の産業集積の戦略を作る必要がある。
- ・検討事項の1点目は高度人材の国際化の部分である。近年、ASEAN 主要5カ国へ進出する日本の製造業に日本留学経験者が就労するケースが増えており、2工区内への企業立地条件に「ASEAN 5カ国への進出企業」を加えることで、2工区がASEAN 5カ国への進出企業のクラスターになり、将来的には先端大学生との人材交流にもつながる。
- ・検討事項の2点目として、けいはんな学研都市の研究施設の社会実装と、東西軸という考え方である。大阪東部地域のように、本市でも県や国の支援なども検討しながらASEAN 5カ国進出にかかわる企業移転に対してインセンティブを与えて企業立地を誘導したいが、企業立地に関するニーズなどはまだ明らかになっておらず、来年度に調査をしていきたい。

（増田座長）

- ・奈良先端大の研究成果がひとつのキーになると思う。

（加藤氏）

- ・意見を話す前に、けいはんな学研都市がポスト万博シティに選ばれたことは聞いているが、ポスト万博シティに選ばれた経緯や意味について教えていただきたい。

（事務局）

- ・具体的な取組はまだわからない部分も多いが、ロボットやAI など最近の新技术、奈良先端

大の研究成果、及び先進技術の社会実装先として選ばれたと理解している。

（河合氏）

・ポスト万博シティとは、国の大阪・関西万博のアクションプランの中の1項目である。大阪・関西万博では、過去の万博のように閉幕後に勢いが急速に衰えることなく、日本全体に効果を波及させたいという思いで、経済産業局と学研推進機構から国に提案して採用された。選定に対する優遇等はなく、万博で披露された技術や人材交流を取り入れ、継承することが目的で、次の経済成長に繋がる共同研究開発の実施や、基本合意を結んだ技術育成の流れを作っている。

・先ほど紹介のあった大学と21の研究機関の共創会議において、昨年の夏からポスト万博に向けてけいはんな学研都市が貢献すべき内容について議論を進め、先月末に提言のような形で大きく3つにまとめた。1点目は、実験都市として科学技術・研究成果の実装に向けた取組を加速させるべきだろうという「未来都市」というものである。2点目は「人材育成」であり、様々な国からの研究者、日本でスタートアップを経験したのちに研究者として戻ってこられる方、大学で研究テーマを持って育った方など、多様なバックグラウンドを持った人材を育成していくべきだと考えている。3点目は「海外との交流強化」であり、海外の方が活躍できる環境を備え、世界に開かれた都市を目指すということである。これら3つの方向性が示され、次期ステージプランの大きな柱として、これから具体的に検討することになっている。

（加藤氏）

・河合委員の説明にあったように、ポスト万博シティとして、ウェルビーイング、ロボット・アバター、スタートアップ、サイエンス&アートという4つの取組みがされている。非常に良い取組みであり、今後も継承できれば良いのではないか。

・資料2の13ページ「次期ステージプランでは、整備済みクラスターと未整備クラスターにおける役割や取組み内容を明確に区別すべきではないか。」という意見には賛同する。第2工区は奈良先端大があり精華地区に隣接していることが強みであり、整備済みクラスターと未整備クラスターを分けつつも、整備後は一体となるようなプランを作成すべきではないのか。交通という観点においても、ステージプランは都道府県の上位となるので、奈良県と京都府を分けて考えずに、けいはんな学研都市を一体的に見てステージプランに反映いただきたい。

・奈良先端大としてはグローバル大学を目指しており、留学生が日本に定着するような取組をキャリア支援として行っていきたいと思っている。ASEAN 諸国への進出企業が誘致され、本学の留学生がここで働く機会が増えると、企業にとって留学生が ASEAN 諸国進出時の架け橋になることも考えられる。大学の基礎研究に繋げるうえで、大学と産業界の取組みには少し溝があり、海外進出を希望するスタートアップ企業に加えて海外進出を支援する機関が地区に誘致されると、溝が埋まるのではないか。

（増田座長）

- ・留学生がこの地域に定着するための支援や、研究成果と先端技術の実装、そしてスタートアップ支援といった、海外人材を増やす取組み内容が不足しているように感じられる。

2工区については交通を伴う交流が非常に弱く、未整備クラスターとして展開する時に、精華地区という既存ストックとの相互間の関係性として、情報だけでなく交通という仕組みが必要ではないか。けいはんな学研都市における交通体系のあり方は、府県の枠組みを超えた都市群としてステージプランに位置づけをするべきである。

（河合氏）

- ・全体プランはあるが整備には至っておらず、交通ネットワークが県境で分断されていることはけいはんな学研都市の大きな弱点であり検討すべき重要事項である。クラスター間連携の中でも高山エリアと精華・西木津エリアの連携は最重要ポイントであり、この間の交通インフラ及び道路ネットワークについては先行個別地区よりも俯瞰的に見る必要がある。

（増田座長）

- ・単なる交通ではなく、情報や科学技術の交流も踏まえた交通基盤の重要性を生駒市側からも積極的に訴えるべきである。

- ・もう一点は、首都圏にはない伝統文化という強みであり、もう一段階上位の概念として必要である。けいはんな学研都市は京都・奈良・大阪という非常に多様な都市クラスター構造をしており、関西都市圏として非常に有利な視点である。

（河合氏）

- ・次期ステージプランにおいては伝統文化の部分の具体化が進んでいない。昔からの伝統文化と新たなけいはんな学研都市の科学技術の相乗効果によって新たな文化を発信するための方法を考えるべきである。今後は、AIのような新技術が日本に最適化されて、けいはんな学研都市の文化面の取り掛かりになることも考えられる。ステージプランの議論の中で様々な意見を出していただきたい。

（増田座長）

- ・次期ステージプランにおいては、万博で謳われている Society5.0 を用いた未来都市の実現や第四次産業革命といったポイントがあまり触れられていないことが課題である。

- ・また、けいはんな学研都市群という見方をせずにクラスターの都市群としてみられているが、今後は既存都市と新規都市を分離せずに、周辺の既存都市や既存ストックとの連携をしていかないと、新たな文化などが生まれないのではないか。

- ・学研高山地区及び周辺地域の価値向上事業において、今までは意見の少なかった若い人達から道の駅のような既存の農村部の産業を取り込みたいという声があり、既存エリアを巻き込んで次の新機軸を見据える必要がある。

(領家氏)

国際化という意味では、市域全体を含めてのホストシティであり、産業支援の環境整備については、2工区だけではなく、タイなどへの進出実績もある企業がある学研北田原地区や第1工区も含まれ、今後も調査を行う方向で検討している。また、研究機関としては、学研高山エリアは精華・西木津地区に十分な集積があり、製造業が集積している大阪東部から東西軸の延長線上でもあるため、産業集積の可能性が十分捉えられる。住宅都市としては、産業面での文脈が弱いため、寄せ集めの集積になりがちだが、既存の集積の延長線上であることを意識していきたい。

(増田座長)

・例えば参考資料の15ページに記載された「継承・更新・新機軸」のうち、「継承」の中に既存都市の継承という印象が弱いのではないか。先行的につくられたクラスターの継承ではなく、これから作られるエリアと周辺エリアを一体にとらえて初めて本来の意味の都市となる視点で見なければならない。

(加藤氏)

・モノとコトという表現があり、まちづくりではコトよりもモノが重視される傾向にあるが、伝統文化という視点ではコトが重視されるのではないのか。

・伝統文化におけるコトとしては日本各地にある祭りがあげられるが、近年は祭りの消滅が問題視されている。新たな文化の創出や奈良伝統文化の継承という意味では、まちづくりに合わせて新しい祭りのようモノを考えることも必要である。従来から、高山サイエンスフェスティバルという名で大学や関連企業と地元住民との交流の場を設けてきたが、参加者を増やすという取組みを進めて新たな祭りをつくるというのも面白い。

(村井氏)

・データセンターの議論があったが高山地区は発電所もあり、地盤が固いと見受けられることに加えて、少し広めの土地を希望されているという点で、今後の立地は可能性があるだろう。データセンターを立地させるとなると、データセンターの廃熱について、最先端の技術を利用して、地元や農業分野との連携といった情報科学領域でのコラボもあっても良いのかもしれない。

(増田座長)

・データセンターはどちらかというと地域にとって貢献型の施設ではないという位置づけが多いが、農業における重要資源である熱源として見た場合、非常に大きな可能性を持っている。

(内田氏)

・各委員の意見もふまえ、交通ネットワークについて、奈良県をどうするのかという観点で見ている。ネットワークを広く繋げるべきであるという点は、これからのステージプランの意見聴取の機会に伝えていきたいと思う。また、整備済みクラスターと未整備クラスターにおける役割や取り組み内容を明確に区別するべきではないかという点は、同じ意見を持っており、既存の整備済みの所との連携の視点も意見として伝えていきたい。

（朝井氏）

・非常に有意義な示唆を頂いた。既存都市に集積している研究機関や他地区との連携も話があり、例えば外国の研究者・労働者を受け入れるにあたって言語の壁があるという点について、精華町に立地している NICT(国立研究開発法人情報通信研究機構)の翻訳技術との連携もあると思う。スタートアップについてもけいはんなイノベーションハブの取組があるので、これから高山地区の整備を進めていく上で、ソフトの面でも既存都市との連携は非常に重要になってくると感じた。

案件2 学研高山地区ゲートエリア基本構想（案）について
資料3に基づき事務局から説明

（増田座長）

・このエリアでは東西線との関係性は出てこないのか。今までのステージプランでも東西線が重要だという意見があり、本案件での位置づけを把握したい。

（事務局）

・まずは南エリアが造られないと明らかにならない。京都府側との連携においても、まだ計画が固まっておらず、まずはゲートエリアの開発を進め、東西線は次の展開で考えていきたい。

（河合氏）

・学研北生駒駅の整備やゲートウェイ及び駅との連携を踏まえると、学研北生駒駅周辺に機能が集積されるにあたり、規模の大小は問わずにゲートエリアに引き込まれるような玄関口としての機能が必要ではないか。

（事務局）

・学研北生駒駅北地区に関しては市有地が無く、地元地権者と一括業務代行予定者の近鉄不動産株式会社が進めている。都市計画道路については北生駒とゲートエリアを結ぶ形で事業化していきたいという流れで進めており、事業地区外の道路整備においては、生駒市建設部で予算化して基本計画、用地買収、測量を進めて事業化していく。

(河合氏)

- ・自動運転については、国道163号以北ではなく、駅から繋ぐのが良いのではないかな。

(事務局)

- ・交流・発信ゾーンの目指す空間像の2点目に「学研都市にふさわしい次世代交通システム実装の実現による移動手段の高度化に資する空間整備」と書いているように、学研高山地区への玄関口として、学研北生駒駅からゲートエリアを起点とする高山地区に入るという位置づけを持たせて次世代交通で繋がりたいと考えている。
- ・また、自動運転については、交通ネットワークの話として第2工区マスタープランにおいて、学研北生駒駅から学研高山地区を経由して精華・西木津、祝園まで次世代交通で結ぶことを検討するという記述があり、次期ステージプランの検討の中で交通ネットワークの位置付けを進めたいと考えている。

(河合氏)

- ・次期ステージプランが終了する10年後に東西軸が出来上がっていないと、事務局が言うネットワークができないことになる、東西軸は非常に重要だと思う。

(加藤氏)

- ・文化・学術・研究ゾーンの導入例に記載されている「高専や奈良先端大に関連する教育施設」に関する意見として、2つの方向性があると思っている。1点目は教育機関の連携であり、本学は奈良高専と一貫教育のようなものの推進と併せて県立医大とも連携教育を考えている。県立医大との連携教育にあたっては距離が問題だと感じており、エリア内に県立医大のランチのようなものがあると連携も進むと思う。もう1つは教育という観点で見たときの生涯学習や学び直しという観点である。生駒市と一緒に本学も公開講座を開催した際は、かなり高齢者の方の学習意欲が強くて参加していただいております、地域住民向けの教育というようなものができるような施設があっても良いと思う。

(増田座長)

- ・奈良先端大が駅前やゲートエリアに顔を出す形になると、地域貢献や地域サービスがより展開できると思う。大阪公立大学は高専も同じキャンパスにあり、高校教育、大学教育、大学院教育が同居することで新カリキュラムの展開ができてきている。

(領家氏)

- ・資料の例は、各地の一番良い事例を集めているので、これが全てできる訳ではない。冒頭補足として意見をした内容はまだ反映されておらず、今後は加藤委員の意見も踏まえて整合性がとれる形で進めていく必要があると思う。

(増田座長)

・多様な学びと交流の出発点という表記がされるなど、ゲートエリア西のイメージが少し強く、ゲートエリア東の文化・学術・研究や都市型産業もテーマ内に触れるべきではないのか。奈良先端大との関係性を考慮するとゲートエリア西側のイメージは重要だが、都市型産業や文化・学術・研究ゾーンといった理念をテーマに打ち出すと良い。

（事務局）

・原案はゲートエリアの西側に重きを置いたテーマかもしれない。先ほど領家委員からあったように、今回の案については現行ステージプランの考え方を組み込んだうえで役員会の中で議論を進めている。これから行われる次期ステージプランの検討内容も踏まえて、再度ご意見をいただきながら、基本構想案を少し見直していくことが必要だと思う。今日、ご意見いただいたものを役員会に共有して、少しブラッシュアップするような形にしていきたいと思う。

（増田座長）

・先ほど加藤先生からあったように、ウェルビーイングに対する貢献度は恐らく出てくるだろうと思う。GX や DX の話だけでなく、もう少しウェルビーイングとの関わりの話が上手く形に表れてくると良い。

第5回会議を閉会する旨を宣言

以上